

東京病院ニュース

第30号 2011年1月1日発行



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168
ダイレクト・イン・ダイヤル 042 (491) 4134
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/tokyo/>

平成23年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

振り返ってみますと、去年は真夏の猛暑を筆頭に、期待された新政権の混乱、検察の証拠改竄、戸籍上生存している超高齢者多数行方不明等々、事の信頼性を根幹から揺るがすような事件が相次ぎ、「はやぶさ」の感動的帰還や診療報酬プラス改定等良いニュースを差し引いても相変わらず先が見えない1年でありました。国立病院機構においても理不尽な事業仕分けがあり、我々の国民への多大な医療奉仕と必死の経営努力が評価されず残念な印象がありました。いっぽう我が東京病院においては4月の予約センター開設から始まり、地域医療への貢献をさらに発展させる8月の救急告示病院化、10月の呼吸器疾患センターの立ちあげ及びホームページリニューアルと進み、最後の大仕事として昨年12月5日に電子カルテへ全面移行しました。電子カルテについては今だ混乱があるようですが、ベンダー側との共同作業と職員の学習と使いこなしにより1月末頃には十分機能するようになるのではないかと期待しています。診療実績については入院・外来とも11月までは順調にのび、今年度医業収支100%超えも期待されましたが、電子カルテ導入時のコスト増と、入院・外来患者のある程度の診療制限によって収支の見通しは下方修正せざるを得ません。いずれにしろ、去年は東京病院にとって転換の年であった様に思います。病院にお力添えをいただいた全ての皆様に感謝いたします。

さて今年はどうでしょうか。来年度予算の中で国立病院機構への運営費交付金が減額される可能性は大で、東京病院への機構からの貸付金等に影響が出るかもしれません。東京病院は機構病院の中で多額の負債を抱えかつ恒常的赤字

国立病院機構東京病院 中島 由槻
病院として、いっそうの経営努力が求められます。また非公務員型独立行政法人への移行も不透明となっています。病院行事としては、6月2～3日に東京の日本教育会館で第84回日本結核病学会を私の会長の下で開催します。大正12年北里柴三郎先生により第1回が開催された歴史と伝統のある学会で、東京病院としては片山名誉院長の開催以後16年ぶりの事です。呼吸器科医師を中心に準備を進めて行きますが、病院職員の皆様にもお手伝いを是非よろしくお願い致します。次に、その直後に日本病院機能評価機構による認定更新手続きが控えています。5年前の初回認定時の準備は大変でありましたが、日常的にまっとうな医療が行われ必要な作業が行われていれば、新たに構える事も多くはないはずです。その意味で職員の皆様も日常的な医療のあり方に一人一人が十分気を付けてください。そして来年の1月、旧国立東京療養所と旧国立療養所清瀬病院が統合され、現在の元になる旧国立療養所東京病院になって50年を迎えます。記念式典と記念誌発行を予定しています。

今年も呼吸器を中心とする高度専門医療と地域に貢献できる医療のさらなる展開を目指して、東京病院一丸となって頑張っております。ご支援のほどよろしくお願い致します。



(撮影：四元名誉院長)

年男年女

新年のご挨拶

循環器科医長 松永 洋一

新年おめでとうございます。

私が東京病院に赴任しましてから、この正月で4年になります。

茅野副院長のご指導を戴きながら、臨床の場において何かを形作ることが出来るように4年間努めて参りましたが、未だ霧中と言った状態です。

さて、公務員のあり方が問い沙汰され始めてしばらくになりますが、昨年は、国会で自らの意見を発言したり、自己判断で映像を公開したりする公務員が現れてきた一年であったのではないかと思います。

パレーシア (parrhesia) というギリシア語をご存じでしょうか？

「包み隠さず話すこと」や「自由な言論の場」を意味するのですが、ミシェル・フーコーは、古代ギリシアのパレーシアの概念を次のように要約しています (1983年)。

『パレーシアは、話者が自己の真理への個人的な関係を表現し、自らの生命を危険にさらす言葉の活動である。なぜなら彼は、自分自身同様に他人を改善させる、あるいは助けるための義務として、真理を語ることを承知しているからである。パレーシアの中で、話者は大胆に話し、説得の代わりに率直さを、嘘や沈黙の代わりに真理を、身の安全の代わりに死のリスクを、おべっかの代わりに批評を、利己心と道徳的な無関心の代わりに道徳的な義務を選ぶ。』

何時か誰かがやってくれるさ…という空気が蔓延している昨今ですが、信念の重さを確認する機会を持ちたいものだと思う今日この頃です。

新年を迎えて

呼吸器科医師 松井 芳憲

新年明けましておめでとうございます。この原稿依頼で今年が年男であることに気付きました。時が経つのは早く、今年で3回目の年男を迎えることとなり、東京病院に着任してから6年経過しました。これまでは、自分自身のことで精一杯で、周りに対して十分に目が向けられなかったように感じます。今年は、年男としての自覚を持ち、今まで以上に周囲に対しての気配りを忘れずに全力で頑張っていきたいと思っています。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

今年の抱負

薬剤科製剤主任 清原 和男

早いもので、大蔵病院を皮切りに、東京病院が5施設目となります。今まで色々な事がありましたが、医療を担う一員として、微力ながら培ってきた経験を反省材料 (こちらの方が多い) も含めて、業務に活かすべく頑張りたいと思います。今年一年、特に留意したい事は、「相手の立場に立って考える」ことも実践したいです。患者さんはもちろん他の医療スタッフとの様々な場面で、その人の立場になって考える事で、例えば同じ事を言うのにも『言い方』一つで全く違った展開になる事があるからです。簡単ではないと思いますが、努力したいと考えます。

新年を迎えて

消化器科医師 井利 雅信

新年明けましておめでとうございます。昨年読んだ「超訳 ニーチェの言葉」の中に、「友について」の章で心に残った一節がありました。「四つの徳を持つ」との題で、「自分自身と友人に対しては、いつも誠実であれ。敵に対しては勇気を持つ。敗者に対しては、寛容さを持つ。その他あらゆる場合については、常に礼儀を保て。」とありました。なかなかできることではありませんが、今年は、この言葉を気にかけてつ日常を送りたいと思っています。本年もよろしくお願ひいたします。

新年を迎えて

6東病棟看護師長 袴田 チサ

あけましておめでとうございます。今年は卯年、自分の干支が巡ってきました。

前回、年女だったときはどうだったかと考えると、今もあまり進歩していないように思えてなりません。年を追うごとに時間の経つのが早くなり、やらなければならないことに追いつけなくなりそうです。今年はウサギ本来の敏捷さを思い出して、仕事も趣味も華麗に (!) こなしてみたいと思います。病棟スタッフがいつも明るく元気でいられるよう、自分も元気な1年であるように頑張りたいと思います。

新年を迎えて

7東病棟 看護助手 金澤 康子

卯年で還暦を向かえ、年女になります。そして3月で退職をすることになりますが、気持ちを新たにしてお正月を迎えたいと思います。今年も孫が出来る予定です。退職後は、主人と旅行などに行きたいと思っています。

昭和60年4月から国立療養所東京病院に勤務し始めました。まだ、2人の子供が6歳と2歳で幼かったが、今では社会人になりました。

当時東京病院は、5階建てと4階建てと平屋の病棟でした。勤務し始めた時は施設内は広くて迷路のようで驚きました。当時は、看護助手が一病棟に3人体制で働いていました。今は、職員が全部で4人と非常勤職員で病院の人員体制も変わりました。25年間、東京病院でお世話になり、病院の職員の方々には、大変お世話になりました。

楽しいことや悲しいことなど色々ありましたが、無事退職できるように頑張ろうと思います。本当に有難うございます。これからもよろしくお願いいたします。

今年の抱負

5東病棟 看護師 宗野 剛也

明けましておめでとうございます。気づけば3回目の年男となりました。職場でのリーダーシップや教育的な役割を担うことが増え、責任の重さを痛感しています。今年も自分のできることをコツコツとやっていき、看護師・呼吸療法認定士としても自己研鑽していきたいと思っています。今年も趣味である写真で、三脚などを使い、日の出などの風景をのんびりと撮る時間を作りたいです。今年もよろしくお願い致します。

新年を迎えて

眼科医師 中山 馨

あけましておめでとうございます。

兎に角年月の巡りは早いもので、また年男が巡って参りました。今更ながら、光陰矢のごとし、中年老いや早く学成り難し、痛感しております。

カメの歩みであっても、しっかり着実に前進していく一年にしたいと思います。

卯頂天になれる日まで

本年も宜しくお願いします。

「問題になっている多剤耐性菌の院内感染」

帝京大学附属病院で多剤耐性アシネトバクターが院内感染を引き起こし、問題になっていたことはご存じだと思います。多剤耐性菌とは、多くの抗菌薬（抗生剤）がきかなくなった細菌のことです。耐性菌の問題は今に始まったわけではなく、1970年代以降、MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）が広がっており、近年では多剤耐性緑膿菌の院内感染も報告されています。

こうした多剤耐性菌は、健康な方に感染症を引き起こすことはきわめてまれですが、病気や薬剤によって体の抵抗力が落ちている方では感染症の原因菌になることがあります。その場合、有効な抗菌薬がないために治療がたいへん難しくなります。

多剤耐性菌が増加している理由としては、抗菌薬の乱用があげられています。適切な抗菌薬を、適切な量で、適切な期間投与することが重要です。しかしながら、多剤耐性菌の出現をゼロにすることは不可能です。

われわれの対応としては、早期に多剤耐性菌を発見し、しかるべき院内感染対策を行い、病院内に広めな

いことが大事になります。当院では、院内感染防止対策委員会の下に感染制御部会を置き、常時いろいろな菌の院内感染に目を光らせています。多剤耐性菌はおもに接触により人から人へ感染が広がりますので、接触感染対策を行うこととなります。患者さんの隔離と医療従事者の手洗いを中心とする接触感染対策です。それにより、多剤耐性菌を封じ込めることができます。

多剤耐性菌が出たとしても、院内感染対策マニュアルに沿って対応すればよいわけで、実はそれほど大騒ぎすることでもないのです。対応せずに院内に感染が広がり、死亡者が出てしまうとたいへんな「事件」となってしまいます。

マスコミの報道で病院内には多剤耐性菌がはびこっているという印象を持たれたかもしれませんが、一定の確率で多剤耐性菌は出てくる、しかし、対応方法は決まっています。それによって広がりを抑えることができるということを知っておく必要があります。

感染制御部会長 永井 英明

テーマ：地域医療連携医交流会を踏まえた地域医療連携室の活動内容

東京病院では地域医療連携の活動の一つとして平成20年より地域医療連携医交流会を開催しています。今年7月13日（火）に第3回東京病院地域医療連携医交流会を開きました。東京病院の呼吸器内科、循環器科、消化器内科からお話いただき、活発な質問や意見が出て大変盛会でした。呼吸器内科益田先生は胸膜疾患の診断と進歩を、循環器内科松永先生は循環器の診療実績と今後の対応について、また消化器内科の矢倉先生、上司先生、田中先生からは連携医からの紹介症例提示をお話しし、具体的で日常に診療にすぐ役立つ内容でした。会の中で東京病院のスタッフと連携医の諸先生との間でお互いに自己紹介をし、顔の見える連携につながりました。今後も地域医療連携医交流会を通して連携医の先生と交流を深め、気軽に患者様の相談・紹介・逆紹介のできる関係の構築を進めたいと思います。今後の地域医療連携医交流会のあり方についても参加していただいた連携医の先生の意見を反映したものにしていきます。

地域医療連携室は、地域の医師会や医療機関と連携し地域医療ネットワークを整備し、できるだけ当院とかけつけ医療機関との業務分担を行い、地域の患者様が安心して継続的医療を受けられるようサービスの向上を図ることを目的としています。_連携のあり方は時代とともに変わり、ニーズに合わせて変わるものです。定期的に直接お会いし、お互いにニーズ、問題点を知り、解決しながらよりよい医療連携につなげることが最終的には患者様への最良の医療サービスを提

供することになると思います。

地域医療連携室の具体的活動としては、地域の医療機関（紹介元）より、当院に患者様を紹介していただく際の窓口として診療予約を受け付けます。また、当院からかけつけ医療機関への逆紹介など紹介元及び紹介先医療機関との情報管理を行います。さらに、当院の64列CT及びMRIを使用して紹介患者様の撮影及び診断を行い、翌診療日にフィルムと報告書を作成し送付しています。現在、単純のみ当日の受付を行っていますが、放射線科はあくまで画像診断のみですので、緊急性を要する患者様の場合は診療科の受診をお願いできればと思います。造影CT及びMRIの依頼については今までどおり予約制となっておりますので、地域医療連携室へご予約をお願い致します。また管理栄養士による栄養食事指導も実施しておりますので、地域医療連携室へご予約をお願い致します。退院調整看護師は、患者様が退院後も治療を継続しながら、患者様・ご家族の方がどのように病気と向き合い生活していくかを考え、不安を解決し退院できるよう支援しております。医療福祉相談室の医療ソーシャルワーカーは、患者様やその家族のかかえる諸問題、すなわち医療費の支払いに関する事、入院・退院・転院、社会復帰に関する事、労働保険、社会保険、身体障害者手帳の作成等、社会福祉制度の活用に関する事などの相談に応じています。これらの活動を地域医療連携室は行っていますのでご利用いただければ幸いです。

相澤 仁志

防災訓練を実施して

消防法施行規則が一部改正され、地震等の災害の避難訓練を年1回以上行うことが義務付けられた。当院でも初の試みとして10月20日（水）に地震を想定した訓練を実施した。地震発生により病棟患者食堂より出火を想定し、「火災発生」「初期消火」「通報訓練」「避難誘導」「消防隊への情報提供」の自衛消防活動を行った。

訓練終了後の消防署よりの講評の中に、地震が発生した時には「身の安全を図る」ことが重要であり、今後の訓練に生かして欲しいとの話がありました。最後に消防署による消火器の操作訓練を行い終了しました。

管理課長 小泉 章



肝疾患談話会

本会は平成19年6月から当院に通院中の患者様やそのご家族を対象に年4回開催しているものです。現在まで15回行い内容と参加人数は表の通りです。様々な肝疾患やそれに関連した疾患について医師、栄養士、看護師、時には院外から講師をお招きして講演会を開いています。講演のあと質疑応答や医療相談も行っています。毎回、活発な質問をされ予定時間を過ぎることもしばしばです。またインターフェロン治療の体験談をお話して頂き、現在治療中の方やこれから治療を受けようとする方に多いに参考となっています。外来のあわただしい診察時間ではご質問に十分、お答えで

きませんがこの会で時間をかけてゆっくりと説明致します。どなたでも参加できますのでお気軽にご参加ください。

今後の予定は当院ホ-ムペ-ジに掲載していますのでご覧下さい。お問い合わせは事務局、東京病院4西病棟、波田野師長まで。

スタッフ：相澤看護師、佐々木真美看護師、細畑看護師、高麗看護師、佐々木美紀副看護師長、不破副看護師長、波田野師長、大西栄養士、矢倉医師

過去の談話会の内容

回数	開催日	テーマ	講師	参加人数
第1回	2007/6/19	会発足にあたって	院長、看護部長挨拶	8
第2回	2007/8/21	インターフェロン治療と副作用	矢倉医師	17
第3回	2007/10/16	C型肝炎と食事、代替療法	大西栄養士、不破看護師	24
第4回	2007/12/18	C型肝炎と食事、代替療法、肝炎と糖尿病	矢倉医師、大西栄養士、不破看護師	18
第5回	2008/2/19	C型肝炎と免疫	矢倉医師	25
第6回	2008/4/19	公開講演会「皮膚病あれこれ」	榎本医師(膚科クリニック)	78
	2008/5/23	公開講演会「肝臓病の最新の話題」	上司医師	
第7回	2008/6/17	C型肝炎と脂肪肝、脂肪肝の食事	矢倉医師、大西栄養士	30
第8回	2008/8/19	IFN治療を受けたC型肝炎患者の体験談	当院患者、不破看護師	23
第9回	2008/10/25	公開講演会「インターフェロン治療の精神症状」	岡崎医師(精神神経センター精神科)	33
第10回	2008/12/9	肝硬変について-肝硬変の食事療法-	矢倉医師、大西栄養士	24
第11回	2009/3/10	インターフェロン治療と間質性肺炎	益田医師(当院呼吸器科)	26
	2009/5/23	公開講演会「肝臓病の最新の話題」	矢倉医師	61
第12回	2009/8/18	インターフェロン治療と副作用、最新の治療	矢倉医師	32
第13回	2009/11/10	肝硬変について	矢倉医師	41
第14回	2010/2/9	原発性胆汁性肝硬変、自己免疫性肝炎について	矢倉医師	47
第15回	2010/8/20	B型肝炎について-時間医学の話-	矢倉医師	24



ICU (集中治療室)

ICUは、2階の手術室の隣にあります。個室1床、オープンフロア3床の計4床と東京病院で一番小さな病棟です。

内科や外科の区別はなく、主に手術後の患者さまや人工呼吸器を装着される患者さまなどが入られています。

また、急に状態が悪くなった患者さまや緊急入院される患者さまも積極的に受け入れを行っています。

医長の元吉医師をはじめ、17名のスタッフで患者さまに安全・安楽はもちろん、急性期であるからこそ温かいケアが提供できるように日々努力しています。

スタッフは内視鏡室での業務も兼任していますので、どうぞお気軽にお声をかけてください。よろしくお願いいたします。



東京病院クリスマスコンサート

2010年12月22日(水)『楽しい冬のコンサート』と題して当院外来待合ホールにてクリスマスコンサートが開催され、入院・外来の患者様、ご家族の方、地域の方など多くの方々に参加していただきました。昨年に引き続き東京病院行事として、全職員の協力の下、「季節行事を通じ、入院・外来の患者様、ご家族の方、地域の方などが病院職員・ボランティアの方々や音楽を通じて交流やふれあいを深める機会を得る」ために、開催に向けた準備を進めてきました。当日は、前日からの雨もやみ師走とは思えないほどの暖かい一日となり、参加者は200名を越す盛大な会となりました。コンサートは職員有志による大合唱から始まり、入院中の患者様の飛び入りのサクソ演奏や企画事務室の草

野かなえさんの独唱、矢倉病棟診療部長のピアノ演奏に続き最後に、音大生による歌とピアノの演奏があり大変盛り上がりしました。観客の皆さんにも生き生きとした笑顔がみられ、アンコールでは一緒に『きよしこの夜』を歌ったり、和やかな雰囲気での楽しいひと時を過ごす事ができたのではないかと思います。今後もみなさまが楽しんでいただけるようなクリスマスコンサートを企画したいと思います。

最後にクリスマスコンサートに参加された皆様、また開催・運営にあたりご協力をいただいた皆様に心より深く感謝致します。

クリスマスコンサート実行委員長 矢島 幸昌



独立行政法人国立病院機構 東京病院
外来診療担当医師表

(平成23年1月4日 現在)

〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1 TEL 042-491-2111 FAX 042-494-2168

< 予約センター > TEL 042-491-2181 ※平日の8時30分～15時00分

< 地域医療連携 > TEL 042-491-2934 FAX 042-491-2125 ※平日の8時30分～15時30分 (医療機関からの問合せを除く)

【診療時間】 平日の8時30分～17時15分 【受付時間】 午前診療：8時30分～11時00分 ※再来の方は8時00分より受付
 ※土・日・祝日・年末年始は休診です 午後診療：12時30分～14時00分

診療科名	月		火		水		木		金		
	担当医名		担当医名		担当医名		担当医名		担当医名		
呼吸器科	新患・再来	午前	当番医	午前	当番医	午前	当番医	午前	当番医	午前	当番医
	再来	午前	松井(弘)	午前	☆赤川	午前	永井	午前	豊田	午前	田村
			☆益田		大島		長山		鈴木(純子)		松井(弘)
			鈴木(純子)		川島		松井(芳)		有賀		寺本
			鈴木(淳)		三上(慈)		有賀		川島		
			鈴木(純一)		赤川				山根		
			☆荒木		☆日下				☆田村		
						☆益田					
	間質性肺炎				午前	赤川					
	非結核性抗酸菌症				午前	倉島					
	いびき・COPD	午前	当番医	午前	当番医	午前	松井(弘)	午前	当番医	午前	当番医
	アスベスト					午前	臼井				
セカンドオピニオン(肺がん)							午後	☆田村			
感染症							午後	永井			
								益田			
								川島			
禁煙					午前	☆臼井	午後	☆寺本			
消化器科	新患・再来	午前	当番医	午前	当番医	午前	当番医	午前	当番医	午前	当番医
	再来	午前	上司	午前	田中	午前	矢倉	午前	☆上司 ※1	午前	矢倉
		午後	☆瀬尾	午前	☆井利			午後	☆時田	午後	田中
糖尿病 ※再来のみ							午後	☆矢倉			
循環器科	新患・再来	午前	茅野			午前	松永	午前	茅野	午前	茅野
	再来	午前	☆松永								松永
神経内科	新患・再来	午前	相澤	午前	栗崎	午前	栗崎	午前	栗崎	午前	石津
	ものわすれ 高次脳機能障害		城山								
						午後	☆栗崎				
呼吸器外科	新患・再来	午前	竹内			午前	桑野	午前	中島	午前	竹内
	再来			午前	☆竹内					午前	井上(雄) 日野
消化器外科	新患・再来	午前	当番医	午前	後藤	午前	当番医	午前	当番医	午前	後藤
			細井		趙		趙		中田	午前	元吉
	肝胆膵外科			午後	後藤					午後	☆元吉
リハビリ テーション科	新患	午前	濱田	午前	伊藤(郁)/濱田	午前	伊藤(郁)			午前	新藤
	再来	午前	伊藤(郁)	午前	新藤	午前	佐藤			午前	濱田
	地域リハビリ相談							午前	☆新藤		
眼科	新患・再来	午前	山田	午前	山田	午前	山田	午前	山田	午前	中山
			中山		中山		中山		中山		
整形外科	新患・再来	午前	☆堀	午前	堀	午前	堀			午前	堀
アレルギー科(喘息)	新患・再来	午前	庄司	午前	有賀	午前	庄司	午前	庄司	午前	大島
放射線科	新患・再来									午前	三上
泌尿器科	新患・再来	午前	浅野					午後	朝隈 ※2	午後	實重 ※2
耳鼻咽喉科	新患・再来			午前	当番医						
緩和ケア科	新患							午前	三上	午前	永井
総合内科	新患			午前	相澤	午前	瀬尾			午前	鈴木(淳)

☆：予約の患者さまのみの診療です ※1：第2・4木曜日だけの診療です ※2：受付は12時30分～14時30分までとなります

専 門 外 来 案 内

専門外来名	診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
呼吸器関係外来	禁 煙 (予約制)	水(午前) 木(午後) タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
	肺がんセカンドオピニオン(予約制)	木(午後) 肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。[1時間まで10,500円]
	間質性肺炎	水(午前) この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合があります。
	非結核性抗酸菌症	水(午前) 咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
	いびきCOPD (睡眠時無呼吸症候群の検査)	月～金(午前) ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
	アスベスト (予約制)	水(午前) アスベスト(石綿)を扱うお仕事をされた方。 アスベスト吸入による肺の病気についてご心配な方(予約制です)
ものわれ外来	水(午後) 最近ものわれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)	
高次脳機能外来	木(午後) 失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など(要神経内科外来受診。)	
肝 胆 脾	金(午後) 肝臓癌、胆嚢癌、胆管癌、膵臓癌や胆石症など、肝胆脾疾患の手術のご相談、お申し込み、セカンドオピニオン等に、専門の医師が対応いたします。	
地域リハビリ相談	木(午前) 連携医の先生方からかりつけの患者様で、運動・言語・嚥下機能に問題があり、リハビリテーションをご希望の方。(かかりつけ医の情報提供書が必要です。)	

診療時間 8:30～17:15
 受付時間 午前 8:30～11:00 午後 12:30～14:00
 休診日 土・日・祝祭日および年末年始(12月29日～1月3日)

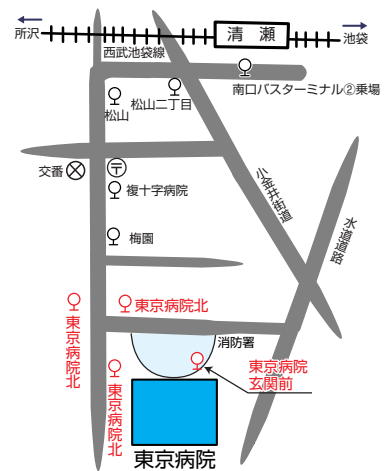
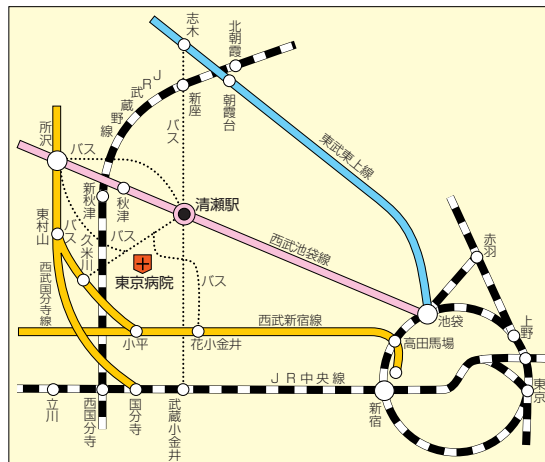
予約センター 042-491-2181
 (受付時間平日8:30～15:00まで)

医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合(医療機関)

外来診療の予約 : 診療依頼書をFAX送信して下さい FAX 042-491-2125(8:30～15:30)
 CT・MRI検査の申し込み : 医療連携室へお電話下さい TEL 042-491-2934(8:30～17:15)

診療内容 病床数560床

- 総合内科科
- 呼吸器科科
- 消化器科科
- 循環器科科
- リハビリテーション科科
- 呼吸器外科科
- 消化器外科科
- 神経内科科
- 放射線科科
- 麻酔科科
- 整形外科科
- 緩和ケア科科
- アレルギー科科
- 泌尿器科科
- 耳鼻咽喉科科



交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・瀧山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。
- 西武新宿線 久米川駅北口より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車でお越しの際は正面よりお入り下さい。(駐車場265台)
 - 30分以内 無料
 - 31分～4時間 100円
 - 以後1時間毎 100円
 - (20時15分～7時 1時間毎300円)